



Fact Sheet は、CBPR では「わかりやすい言葉で、定期的に、研究活動についての情報をパートナーらと共有する」ために活用します(Israel, 2005,p.298)。本プロジェクトにおいても、Fact Sheet を定期的に発行し、ANCC プロジェクト研究の進捗の概要やデータを共有し、関連するトピックや文献などからの研究成果等も含めます。

Steering Committee Members:野地有子,溝部昌子

Steering Committee Partners:北池正,望月由紀,辻村真由子,池崎澄江,田所良之,鈴木友子,若杉歩

大友英子,西山正恵,池袋昌子,小嶋純,菅田勝也

## 外国人患者への看護対応に関する病院調査 病院調査票作成について

報告者：溝部 昌子

本研究プロセスでは、国内医療施設における外国人患者への文化的対応について調査を計画しており、これまでの研究成果を踏まえ、病院調査票作成にあたったので報告する。

## 2. 国際シンポジウム

平成 26 年 3 月、国際シンポジウムを実施し、報告書を作成した。

表 2 国際シンポジウムプログラム

3月8日 9:30~16:30 千葉大学西千葉キャンパスけやき会館大ホール
モース先生によるミックスド・メソッド国際ワークショップ ～ 質的アプローチと量的アプローチによる 1.5 倍の接近法 ～ Dr. Janice Morse (米国ユタ大学教授、GQHR 理事長) Dr. Pakvilai Srisaeng (タイ王国コンケン大学大学院看護学研究科長 UNFPA & WHO, Lao PDR アドバイザー)
3月9日 9:30~17:00
第1部：講演 基調講演：看護職の文化能力(1) ソルトレイクシティ冬期オリンピックの経験から Janice Morse, RN, PhDs (米国ユタ大学教授) 講演1：看護職の文化能力(2) Lauren Clark, RN, PhD (米国ユタ大学教授) 講演2：看護師実践にむけた異文化理解～理論から実践へ～ Orasa Kongtalin, RN, PhD (タイ王国コンケン大学准教授) 講演3：看護学生の文化能力を高める取り組み Heeseung Choi, RN, PhD (韓国ソウル国立大学准教授) 講演4：看護師の文化能力を高める取り組み Katsuko Tanaka, RN, DNP (米国ワシントン大学臨床准教授) 講演5：服薬方法からみた異文化の課題～国際比較の事例から～ Jun Kojima, PhD(一般社団法人医療健康資源開発研究所代表理事)
第2部：パネル・ディスカッション

### A 聞き取り調査 既に終了

- 対象：日本、韓国、米国病院看護管理者、看護師、助産師
- 内容：外国人患者の看護の経験と課題

### B 病院調査 今回調査 平成26年9-11月

- 対象：日本の医療機関の看護管理者
- 内容：施設の国際化と看護対応

### C 看護師調査 平成26-27年予定

- 対象：B調査対象に勤務する看護師、助産師
- 内容：多文化看護の実践、文化能力

### D教育モジュール開発 平成27年4月予定

- 対象：看護学生、看護師
- 内容：多様な文化背景を持つ患者の看護

### E 臨床応用 平成27年7月予定

- 対象：看護師
- 内容：文化能力の臨床応用モデルの検討

図 1 研究フロー

## 1. 聞き取り調査

平成 26 年 2~6 月、病院看護部を対象に外国人患者への看護対応に関する聞き取り調査を実施した。調査結果についてはそれぞれの報告に委ねる。

表 1 聞き取り調査対象概要

	日本	韓国
対象者数 (担当者)	2 (鈴木・若杉) 5 (野地・西山) 3 (野地・辻村) 3 (大友・西山) 3 (池袋・李) 2 (西山) 10 (溝部)	14 (辻村・若杉)
看護部：サービス部門	10 : 18	1 : 13
施設数	10 病院	5 病院 1 診療所
医療施設所在都市名	東京 (23 区内) 福井、京都、筑波 福岡、久留米	ソウル

## 3. 外国人への医療に関する過去の調査

外国人患者への医療提供、病院の国際化に関する他施設を対象とした調査は以下であり、調査内容及び結果を精査した。医療ツーリズムの需要、外国人患者への対応、看護及び看護師などの性質があった。

- ①野村総研、「平成 21 年度サービス産業生産性向上支援調査事業国際メデイカルツーリズム調査事業報告書」
- ②野村総研、「平成 22 年度サービス産業イノベーション促進事業(国際医療交流調査研究事業)報告書」
- ③三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング、「わが国における外国人医療の現状について」
- ④社団法人日本医師会、「各都道府県における医療ツーリズムの動向」2011 年
- ⑤一般財団法人自治体国際化協会、「自治体国際化フォーラム」特集『医療通訳』国内調査(医療通訳養成、電話通訳、医療通訳派遣)、

- 海外状況調査(ニューヨーク、イギリス、フランス、シンガポール、韓国、オーストラリア、中国)
- ⑥一般財団法人自治体国際化協会、CLAIR 調査報告書「英国マイノリティ施策」、「シンガポールの医療ツーリズム」、「オーストラリア在住外国人のための医療通訳」
  - ⑦万国医療津梁協議会、平成 24 年度沖縄地域国際医療交流ネットワーク活動事業「外国人患者受け入れに関する現状調査報告書」
  - ⑧遠藤弘良、平成 22 年 3 月厚生労働科研「国際医療交流(外国人患者の受け入れ)への対応に関する看護の現状と諸外国における状況との比較、科学的研究費助成事業研究成果報告書基盤研究(B),2009-2011
  - ⑨安達由希子、小川美奈子ら:外国人患者のケアに関する公立病院の調査、大阪大学看護学雑誌,15(1):19-31,2009
  - ⑩中川恵子、多久和紀子:地域における外国人医療の現在と今後への展望-医療機関を対象とした調査から-,石川看護雑誌,9:23-32,2012
  - ⑪久保陽子、高木幸子ら:日本の病院における救急外来での外国人患者への看護の現状に関する調査、厚生の指標,61(1):17-25,2014
  - ⑫川口貞親:在日外国人に対する看護の現状と諸外国における状況との比較、科学研究費助成事業研究成果報告書基盤研究(B),2009-2011
  - ⑬長谷川智子、竹田千佐子ら:医療機関における在日外国人患者への看護の現状、福井医科大学研究雑誌,3(1-2):49-55,2002
  - ⑭長坂香織、百々雅子:医療の多文化化に向けて-山梨県在住外国人の語りから見る医療の現状と課題-,山梨県立大学看護学部紀要(13):47-60,2011

#### 4. 病院調査票アイテムプールの作成

これらの調査結果や調査項目を踏まえ、SC メンバーでアイテムプールを作成し共有した。また、SC パートナー8名の会議において、4人からなる2グループでアイテムプールを作成し、質問の目的や内容が似ている項目をグループ化する作業を行った。この他、聞き取り調査実施者、調査担当者から追加された項目を含めて調整し、評価指標としての構造、

表3 アイテムリスト(概略)

番号	項目	回答様式	下位尺度	側面
1	施設名	名義	施設概要	構造
2	設置主体	名義	施設概要	構造
3	病床数	数	施設概要	構造
4	年間患者数	数	施設概要	構造
5	病床の種類	あり/なし	施設概要	構造
6	診療の状況	あり/なし	施設概要	構造
7	職員数	数	施設概要	構造
8	「新人看護職員研修ガイドライン」	あり/なし	施設概要	構造
9	外国人患者受け入れ方針	4-リカート	経営・組織	構造
10	JCI、JMP認証取得状況	あり/なし	経営・組織	構造
11	外国人患者のデータ集計	あり/なし	経営・組織	成果
12	外国人患者の増加	4-リカート	経営・組織	成果
13	専門対応部署	あり/なし	サービス	構造
14	直接相談できる窓口	あり/なし	サービス	構造
15	外国人患者への対応マニュアル	あり/なし	サービス	構造
16	設備、器具、医療材料	あり/なし	サービス	過程
17	看護で、特別な対応	あり/なし 記述	サービス・看	過程
18	診療で、特別な対応	あり/なし 記述	サービス・医	過程
19	薬物療法で、特別な対応	あり/なし	サービス・薬	成果
20	管理栄養士の訪問	4-リカート	サービス・食	成果
21	地域住民のニーズアセスメント	4-リカート	連携	成果
22	地域住民や関係機関へ広報	4-リカート	連携	成果
23	外国人患者担当看護師	4-リカート	サービス・看	構造
24	外国人患者担当看護師の背景・能力	あり/なし 記述	サービス・看	構造
25	外国人患者担当看護師の勤務調整	4-リカート	サービス・看	過程
26	外国人患者の言語	あり/なし	言語	成果
27	文字による支援	あり/なし	言語	構造
28	院内スタッフによる通訳	4-リカート	言語	成果
29	常時通訳サービス利用	4-リカート	言語	成果
30	その他の通訳ツール	あり/なし 記述	言語	過程
31	通訳サービスの説明	4-リカート	言語	過程
32	通訳サービス関連予算	あり/なし 記述	言語	構造
33	医療通訳者の能力評価、査定	4-リカート	言語	過程
34	医療通訳担当者の勉強会や意見交換会	4-リカート	言語	過程
35	院内CC教育プログラム	4-リカート	教育	過程
36	看護部の国際交流プログラム	あり/なし	教育	過程
37	外国語対応ボランティア	あり/なし 記述	連携	過程
38	外部の組織や関係者と連携	あり/なし	連携	過程
39	トラブル	4-リカート 記述	サービス・看	成果
40	患者安全	4-リカート 記述	サービス・看	成果
41	外国人患者の診療・看護に対する満足度	4-リカート	サービス・看	成果
42	今後の取り組み	あり/なし 記述	教育	過程

過程、成果を含むこと、アイテムが網羅的でありグループ化が収束したこと、病院調査結果が反映されていることを確認した。アイテムリストの英語翻訳版を米国ワシントン大学クリスマン教授に確認を依頼し、尋ね方や回答についていくつかの助言を得た。最終的に下位尺度-項目構成を検討し、質問の順番を含めた病院調査票原案を作成した。回答は、施設概要についての実数を記入するもの、あり/なしの二者択一、考えや実施の程度について段階的な回答を得る4-リカート法、取り組みや理由について多肢選択、それらの実態について記述する方式とした。

#### 5. 作成した病院調査票と外的基準の関連について

CLASにおける15分類、NQFにおける45項目7ドメインを外的基準として、項目及び調査票構成を検討した。

またJCAHO評価基準、JMIP評価票の項目と照らして、内容が相当するものの、一致しない独自項目が本調査に含まれることを確認した。詳細は、文末資料をそれぞれのウェブサイトから入手し参照できる。

表4 病院調査票と他の外的基準との関連

National CLAS Standards 2012	National Quality Forum	該当項目番号 (重複含む)
1 文化ケアの実践	ケア提供と支援のメカニズム	13-20
2 ガバナンス・リーダーシップ	リーダーシップ	5,6,8,9,10,32
3 多様な職員構成	職員の多様性と教育	7,24
4 職員のCLAS研修	職員の多様性と教育	35,36,42
5 言語支援(通訳・翻訳等)	コミュニケーション	26,28,29,30,31
6 口頭・文書による言語支援の紹介		27
7 通訳の能力査定	コミュニケーション	33,34
8 地域で使用される言語の資料	コミュニケーション	27
9 戦略計画文書	リーダーシップ	9,10
10 内部評価(患者満足度・成果評価)		39,40,41
11 患者の文化・言語の情報管理	管理システムと運用への統合	11,39
12 文化・言語に根差した実施計画のためのニーズアセスメント		21
13 地域参画	地域連携	21,22,37,38
14 葛藤・苦情解決プロセス	職員の多様性と教育	39,40,41
15 地域社会への広報	リーダーシップ	22

CLAS:Culturally and Linguistically Appropriate Services

#### 6. プレテストの実施

平成 26 年 9 月 3 週間にわたって、12名(施設)に協力を依頼し、所定のフィードバックシートまたは文書で指摘を受けた。回答者の立場により「外国人」のとらえ方が様々であること、施設概要についての質問、回答欄のついての要望などがあった。「外国人」についての説明の追加、施設概要の質問項目の修正、回答欄の調整を行った。

#### 7. 病院調査票の確定と調査の実施

平成 26 年 9 月 25 日病院調査票を、併せて、「研究協力依頼文書」、「研究同意書」、「今後の研究参加へのお伺い」文書についてもプレテストを踏まえて修正し確定した。印刷配送手続後、9月30日499施設看護部長宛に調査票を発送した。調査期間は10月、留め置き期間を1か月としている。

#### 8. 資料

1. Office of Minority Health, Human Health Service : National Standards for Culturally and Linguistically Appropriate Services in Health and Health Care, 2000, revised in 2012
2. National Quality Forum : A Comprehensive Framework and Preferred Practices for Measuring and Reporting Cultural Competency,2009
3. Joint Commission : Crosswalk of the National Standards for Culturally and Linguistically Appropriate Services (CLAS) in Health and Health Care to The Joint Commission Hospital Accreditation Standards,2014
4. 一般財団法人日本医療教育財団 : 外国人受入れ医療機関認証制度 現況調査票 Ver.1.0 及び自己評価票 Ver.1.0,2012